

第 5 章

計画の推進に向けて

- 1 推進体制
- 2 進行管理

第5章 計画の推進に向けて

1 推進体制

緑の将来像「まちと緑と つながるしあわせ かかみがはら」の実現に向けて、緑が多様な機能を発揮するためには、市民、市民団体、民間事業者、行政の多様な主体が、個々に取り組むだけでなく、それぞれの役割を理解して互いに連携しながら取り組むことが重要です。

市民団体

- ❖ 市内の緑化の推進
- ❖ 樹林地・公園緑地等の緑の保全・維持管理
- ❖ 新たな公園の活用
- ❖ 講習会の開催等による担い手の育成
- ❖ 自治会・他団体との連携
- ❖ 緑に関するイベント等の開催 等

市民

- ❖ 敷地内の緑化の推進
- ❖ 身近な公園の維持管理
- ❖ 公園・緑地等の積極的な利用
- ❖ 緑の中での遊びや学習
- ❖ パークレンジャー等の市民活動への参加
- ❖ 緑に関するイベント等への参加
- ❖ SNS を活用した緑の魅力の情報発信
- ❖ 緑への関心と理解を深める
- ❖ 緑の募金への協力 等

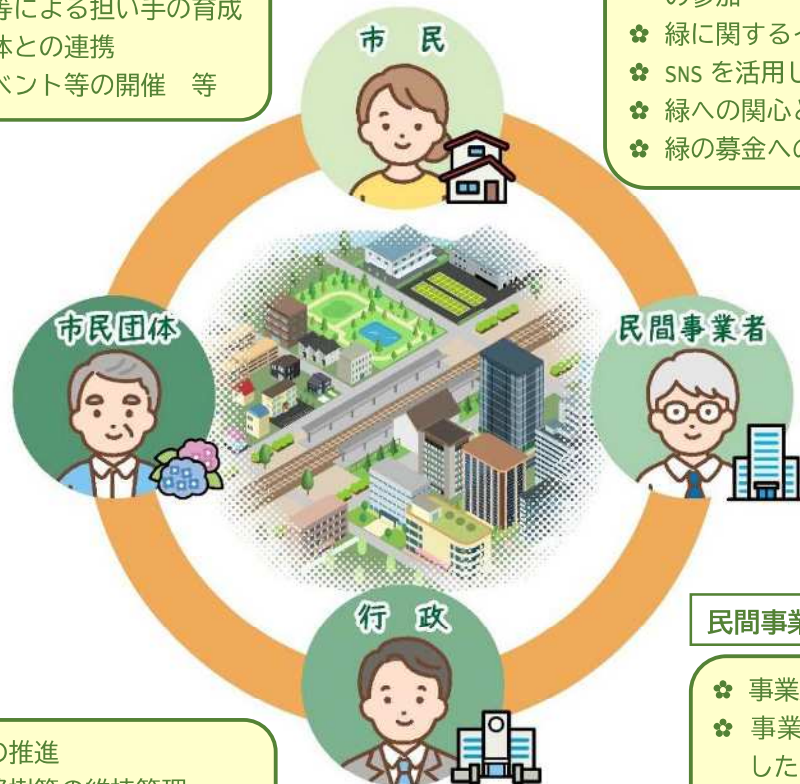


図 役割のイメージ

行政

- ❖ 公共施設の緑化の推進
- ❖ 公園・緑地・街路樹等の維持管理
- ❖ 公園・緑地等の整備
- ❖ 新たな公園の活用
- ❖ 継続的な緑の状況把握
- ❖ 緑化指導・土地利用規制
- ❖ 庁内の連携強化
- ❖ 財源の確保
- ❖ パークレンジャー等の市民活動の支援
- ❖ 緑に関わる機会の提供
- ❖ 緑に関する情報発信 等

民間事業者

- ❖ 事業所の緑化の推進・公開
- ❖ 事業所及び周辺環境に配慮した緑の保全・維持管理
- ❖ 緑を通じた社会貢献活動の実施
- ❖ パークレンジャーへの登録
- ❖ 緑に関するイベント等への参加・支援 等

2 進行管理

(1) 基本的方針

緑の基本計画を効率的・効果的に推進するため、PDCAサイクルによる進行管理を行います。このPDCAサイクルは、計画全体（10年間）だけでなく、個々の事業レベルでも活用します。

また、計画の達成状況を把握するため、第3章に達成指標を設定しています。計画の実施状況や達成度を継続的にモニタリングし、より実効性のある計画としていきます。

(2) 社会経済情勢の変化への対応

今後10年間、本計画に基づき施策を展開していきますが、社会経済情勢がめまぐるしく変化しても、その状況に応じて適時適切に施策を講じていかなければなりません。

そのため、OODA（ウーダ）ループの考え方を取り入れます。OODAループは、「Observe」（観察）⇒「Orient」（状況判断）⇒「Decide」（意思決定）⇒「Act」（行動）の4段階を繰り返すことによって、現状を把握・分析し、時代や環境の変化に即応し、迅速に意思決定を行っていく手法です。

計画期間において、社会経済情勢の変化や多様化する市民ニーズを常に把握し、的確に対応するため、PDCAサイクルにOODAループの考え方を取り入れ、より効果的に施策を推進します。

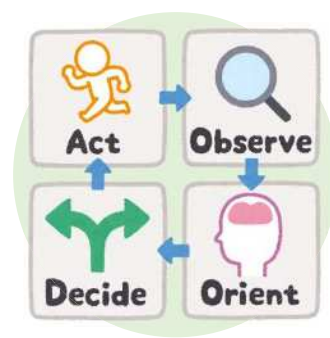


図 OODA ループのイメージ

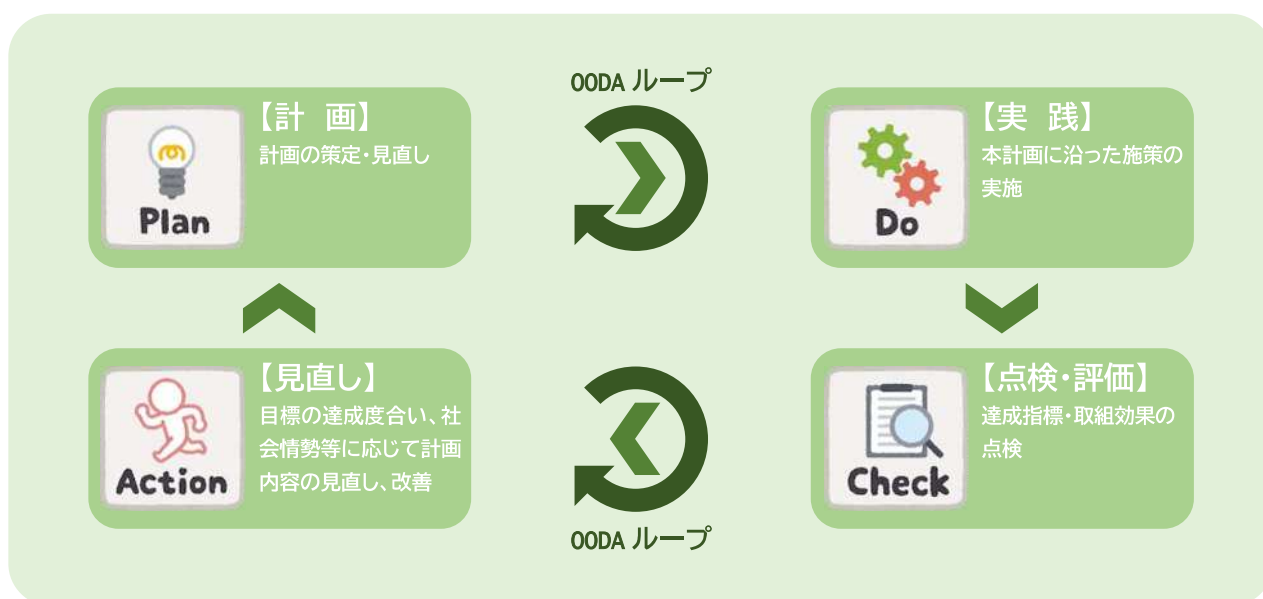


図 進行管理の全体イメージ



コラム

PDCAサイクルとOODAループの関係

OODAループは、PDCAサイクルの代替ではなく、相互に補完する関係であることから、相乗効果が期待できます。PDCAサイクルを1回回すために、OODAループを2回回します。

① Plan（計画）を立てるとき

Observe（観察）⇒ Orient（状況判断）⇒ Decide（意思決定）を行い、Act（行動）＝ Do（実行）につなげます。

② Check（評価）するとき

Observe（観察）⇒ Orient（状況判断）⇒ Decide（意思決定）を行い、Act（行動）＝ Action（見直し）につなげます。